



〈自分（たち）でつくるみんなの学校～日本一美しい学校を目指して～〉

成美っ子

学校だより 令和4年度No.5



学習発表会の思い出から

校長 佐野 正人

最近暑さも和らぎ、花壇のコキヤは赤色を染める準備を始めました。秋の訪れを感じます。最近、来月の学習発表会に向けて、各学年の作品の製作や、学芸会の練習が始まりました。子供たちの元気な台詞や歌声を聞き、練習の様子を伺うと、初めて学級を担任した頃を時々思い出します。そんな思い出から最近考えることを紹介します。

教員になって2年目に、初めて中学2年生の担任となりました。その当時は、学校祭（学習発表会）と並行して合唱コンクールも行われていました。指定された場所、時間を有効に活用し、どのクラスも熱心に練習に取り組んでいました。私はというと、美術科という教科担当の関係もあり、展覧会の準備に忙しく、放課後は学校中を走り回っていました。子供たちの練習を見に行くのも精一杯でした。

そんなある日、練習後に数名の女子がMさんを取り囲んで、何か話していました。何かと近寄ると、「放課後一緒に練習することを了解したのに、なんで帰ってしまうの？」と詰め寄っています。どうも体育の授業で行われている創作ダンスの練習に参加しないことへの不満のようです。下をうつむいてじっと黙っているMさんを見ながら、何も言葉をかけられない私でした。実は、Mさんは、放課後は早く家に帰り、病弱な母親に代わって買い物をしたり、夕食の準備をしたりしなくてはいけなかったのです。そのことを伝えることもできなかつたのですが、なんとかその場をなだめました。

あの日から30年以上たったのですが、現在「ヤングケアラー」という存在が大きく社会で取り上げられています。小学生の15人に1人、中学生の17人に1人が、家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っているという実態が明らかになっています。その当時にそのような認識があれば、Mさんへの支援や子供たちの理解を深めることができたのではないかと考えます。

その後、大きなトラブルもなく、Mさんはグループの一員として創作ダンスを行うことができました。また、合唱コンクールは、クラスの子供たちの頑張りにより、最優秀賞をいただくことができました。

同じく2年目に、大規模校の展覧会部門の総責任者となり、展示の計画から準備、莫大な予算の執行等まで、毎日忙しく校内を走り回っていました。各展示室の責任者と連絡を取り合いながら、展示に必要な物品を揃えたり、作品展示のための準備をしたりと動いていると、あっという間に時間が過ぎてしまいます。

当時の学芸会では、3学年を中心に選抜された生徒が行う劇と、演劇部員による劇がありました。いずれの劇にも大きな背景が必要であり、その背景を制作するのも私の仕事でした。1枚90cm×180cmのパネルが3枚連なった画面（計270cm×180cmの大画面）が2種類必要です。手際が悪い私でしたので、日がどんどん過ぎていき、完成が予定されていた日が迫ってきました。そこで、教頭先生に、なんとか夜通し絵を描くことができなにかお願いし、許可を得ることができました。その日の展覧会の準備を終えた18時以降、柔剣道場に行き、そこに並べられているパネルに向かって描き始めます。

静まりかえった室内には、秋の虫の声しか聞こえてきません。粉絵の具にニカワを混ぜ、刷毛や絵筆で描いていると、次の日を迎える24時を過ぎた頃でしょうか、突然、戸を開ける音がし、「佐野、がんばってるか？差し入れ持ってきたぞ」と数名の先輩が入ってきたのです。家に帰られたはずの方々がそこに立っておられるのが不思議で、ぼかんとしていると、頑張っている後輩を励まそうと声をかけ集まったということでした。差し入れをいただきながらしばらく談笑すると、一気に元気がわいてきました。以前、宿命と運命、使命について学校便りに書かせていただきましたが、まさしくその先輩方とは現在もお付き合いさせていただいている貴重な運命の方々です。

先日、出張から帰ってくると、勤務時間外にも関わらず花壇の整備を行っている職員の姿がありました。研修会に向けての環境整備、卒業アルバムの撮影のための整備として、花株の植え替え、草むしりなど急遽行ったということでした。その姿を見て、感謝の気持ちで一杯になるとともに、「チーム成美」っていいなと感じました。一緒に働く仲間が今後、一生の友となることを願いたいものです。

昔のことをさておき、「さあ、仕事のめどをたて早く帰りましょう」と、毎日のように語る校長がいるのですが……